

2010年4月2日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2009 を選出：復活と再生の市場

キャピタルアイ・ニュースは2日、キャピタル・アイ Awards“BEST DEALS OF 2009”と“BEST ISSUERS OF 2009”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2009年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

2009年度のキーワードは復活と再生。2008年秋のリーマンショックを経て、市場の回復を試しつつ、見事成功を収めた案件への評価が高い。

普通社債部門のソニー、日産自動車は回復途上の市場で大型の案件を登場させ、ソフトバンクはトリプル B 事業債の先陣となり、オリックスは常連として復活した。

既公開株式公募・売出部門の東芝は、事業会社の大型案件の先頭を走り、3000億円規模の増資を成功させ、日本アコモデーションファンドは1年3ヵ月ぶりに J-REIT 市場を再開。高島屋は国内企業として1年3ヵ月ぶりとなる公募ユーロ円 CB を発行した。

以下が授賞リスト(<>内は主幹事、日付は条件決定日／決議日)。

普通社債部門

BEST DEALS OF 2009

第24回ソニー債	6月9日	3年	600億円
第25回ソニー債	6月9日	5年	1100億円
第26回ソニー債	6月9日	10年	500億円

<野村／日興シティグループ／三菱UFJ／みずほ>

赤字決算やムーディーズによる格下げ(A2→A3)という逆風にも関わらず、事前にデットIRを実施するなど入念な準備を経て起債に臨み、総額2200億円のディールを実現。起債環境の改善を確認する案件となった。銀行債を除くホールセール債では2009年度最大。

BEST DEALS OF 2009 2位

第48回日産自動車債	9月11日	3年	350億円
第49回日産自動車債	9月11日	5年	350億円

<みずほ／三菱UFJ／日興シティグループ>

リーマンショック後のシングル A マイナス(R&I)の銘柄として最大となる総額700億円で起債し、市場環境の改善がこのクラスにまで拡大したことを印象付けた。プライシング面では実勢よりタイトながら投資家の理解を得た水準を実現した。

BEST DEAL OF 2009 3 位

第 5 回日本たばこ産業債 5 月 28 日 5 年 1000 億円
〈野村／大和SMBC／みずほ〉

市場に不安定感が残っていた時期に、銘柄の希少性や財務の安定性、一般担保付のスキームを投資家にアピールして起債。1 トランシェで当初の 400 億円から 1000 億円にまで積み上げた。

特別賞

第 28 回ソフトバンク債 7 月 15 日 3 年 300 億円
〈大和SMBC／みずほ〉
第 30 回ソフトバンク債 3 月 5 日 5 年 300 億円
〈大和キャピタル・マーケット／みずほ〉

第 28 回債はリーマンショック後初めての民鉄銘柄を除くトリプル B クラスのホールセール債として登場。12 月に JCR が格付けを引き上げた (BBB→BBB+) ことを受けて、その後の第 30 回債は、5 年ゾーンに年限を伸ばした。7 月の倍の投資家が出動し、100bp 超のタイトニングにも成功した。

BEST ISSUER OF 2009

オリックス

2008 年 8 月の 2 年物リテール債を最後に休債を余儀なくされたが、2009 年 11 月に機関投資家向けの 3 年債で起債を再開。回を追うごとにスプレッドを縮小させ、年度後半だけでリテール債を含めて 5 本で総額 1750 億円を調達した。常連として見事に復活を果たすと同時に、後続ネームの道を切り開いた。

財投機関債等部門

BEST DEALS OF 2009

第 21 回関西国際空港債 1 月 28 日 3 年 350 億円
第 22 回関西国際空港債 1 月 28 日 5 年 50 億円
〈大和キャピタル・マーケット／みずほ〉

事業仕分けによる補給金凍結 (後に減額) を受けて既発債がワイドニング。さらに日本航空の破綻という逆風のなかでの起債。しかし、事前の投資家訪問やニーズに応じたプライシングによって総額 400 億円を円滑に消化し、空港セクターの不透明感を拭った。

BEST ISSUER OF 2009

日本政策金融公庫

政府系 4 金融機関が統合し、2009 年 10 月に初めて起債。2~20 年の 5 つの年限にわたり年度内に 2 回、総額 1860 億円を発行した。国の政策金融における発行体の重要な位置付けを投資家に認知させ、財投機関債のベンチマーク的な地位を確立しつつある。

地方債等部門

BEST DEAL OF 2009

平成 21 年度第 18 回愛知県債 3 月 12 日 2 年 280 億円

〈日興コーディアル／東海東京／みずほインベスターズ〉

全国型市場公募地方債で初めての 2 年債。地方債全般に発行額が増加し、年限の多様化が一つの課題として認識されているところへ、新たな年限での実績を示した。短期ニーズに歓迎され順調に消化した。

BEST ISSUER OF 2009

東京都

市場実勢を踏まえた起債運営に対する安心感、発行実績、流通量、いずれも地方債トップの発行体。地方債市場全般を見渡したスタンスに対する評価も高い。当年度は 10 年債でスポット発行やハイブリッド方式などの新たな試みがあった。

サムライ債部門

BEST DEALS OF 2009

第 1 回フランス電力債	7 月 3 日	5 年 3 カ月	450 億円
第 2 回フランス電力債	7 月 3 日	7 年	441 億円
第 3 回フランス電力債	7 月 3 日	3 年	163 億円
第 1 回変動フランス電力債	7 月 3 日	5 年 3 カ月	50 億円

〈三菱UFJ〉

「政府保証付きから政府保証なし」への移行を成功させた象徴的な案件。国内シェアが 9 割前後で政府との結びつきが強い電力会社という点を武器に、2008 年 9 月のダイムラー 3 本立て債以来となる事業会社のサムライ債として 1104 億円の需要を集めた。「後続銘柄の道筋をつけた」と評価された。

BEST ISSUER OF 2009

ウォルマート・ストアーズ

サムライ債市場の代表格として地位を確立。金融危機後に純粋コーポレート物で初めて起債し、2008 年 7 月のデビュー債同様に 1000 億円の案件を成功させ、市場の復活を印象付けた。「安定したクレジットに安住せず、投資家との対話を大切にす姿勢」への評価は高い。

証券化部門

BEST DEALS OF 2009

第 24 回住宅金融支援機構債	4 月 23 日	35 年	804 億円
S 種第 13 回住宅金融支援機構債	4 月 24 日	—	1500 億円

〈三菱UFJ／クレディ・スイス／野村〉

年度始めの 4 月 23～24 日に登場。2008 年 12 月の休債以降、初めて月次と S 種の総額 2304 億円の連日起債が実現し、機構 RMBS の完全復活を印象づけた。2 本のうち S 種債は WAL が短期化して初めての発行であり、地方投資家を呼び込む契機となった。

特別賞

エルピーダメモリ

9月1日

公募：5500万株

633億6000万円

〈モルガン・スタンレー〉

改正産業再生法の適用を認定され、実質的な公的資金を受けた直後の公募増資。発行体のビジネスモデルに理解のある海外機関投資家を中心としたオフリング・ストラクチャーを選択。厳しい状況下で適切な市場を選択し、機動的に運営された。

BEST ISSUER OF 2009

三井住友フィナンシャルグループ

総額1兆9325億円に上るグローバル案件を実施。需給環境が好転するタイミングをうまく捉え、2度の大型増資を成功させた。国際的な新自己資本規制に対応する資本増強に向けて、日興コーディアル証券の買収やアジア市場への成長戦略を軸に、適切なエクイティ・ストーリーを示した。

不動産投資信託証券部門

BEST DEAL OF 2009

日本アコモデーションファンド投資法人 10月16日 公募：4万2000口 204億9222万円

〈野村／メリルリンチ日本〉

1年3カ月の空白を破る、リート市場再開の第一号案件。物件ポートフォリオの強化を図り、ファイナンスに伴う希薄化の影響を最小限にとどめる工夫もあった。発行市場の回復を印象付けるとともに、マーケットの活性化を大いに期待させる案件となった。

BEST ISSUER OF 2009

該当なし

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEAL OF 2009

高島屋 ユーロ円CB

10月29日

5年

200億円

〈UBS／野村インターナショナル〉

国内企業として1年3カ月ぶりの公募ユーロ円CBを発行。ゼロクーポンでアップ率30%という強気の発行条件に懐疑的な見方が残るなかで、日本企業による新発債の希少性に注目したアウトライト系の需要を集め、市場の不安を払拭。タイミングを捉えた起債で後続案件に道を開いた意義は大きい。

BEST DEALS OF 2009 2 位

旭硝子 ユーロ円 CB	11 月 25 日	3 年	500 億円
旭硝子 ユーロ円 CB	11 月 25 日	5 年	500 億円

〈野村インターナショナル／JPモルガン〉

発行総額 1000 億円は 2009 年度のユーロ円 CB で最大。3 年債と 5 年債の 2 本立てで複数の条項を付し、幅広い投資家層のニーズに対応する一方、発行体の資本調達の実便性にも合致したストラクチャーで、大型起債を成功させた。良好なクレジットを背景に、30%台後半という高アップ率のプライシングを実現している。

BEST ISSUER OF 2009

該当なし

■ キャピタル・アイ Awards とは:

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債、外債(日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券(J-REIT)、転換社債型新株予約権付社債(CB)の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆ 株式会社キャピタル・アイについて

代表者: 代表取締役 高田 一子

所在地: 東京都千代田区九段北 1-12-3 井門九段北ビル 4 階

設立: 2006 年 7 月

資本金: 8 千万円(2007 年 11 月 30 日現在)

主な事業の内容: 金融市場に関するオンライン情報サービス

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場やCDS市場、CP市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ: <http://news.c-eye.ne.jp/info/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

広報担当: 桜井由佳 03-6826-4710